Series 31
オーディオ
つれづれの記

オーディオ歴 60 数年

渡辺　肇幸（としゆき）
1995 年 3 月入会

1. 1960 年前後

私は貧乏学生、少しは「教養」をつけねばと、NHK のクラシック音楽番組を「聴いては止め」を繰り返していました。興味が持てなかったのです。そんな時ある人がチャイコフスキー「交響曲第 5 番」とブラームス「交響曲第 1 番」の LPを貸してくれました。別の人がプレーヤーを貸してくれました。聴いてみたところ、大変すばらしい。病みつきになりました。

私はプレーヤーが欲しくなり、有り金3千円を持って、電器店に出かけました。貧乏学生にとっては大金です。ところが一番安いので 4 千円。お金が足りません。口うるさそうなおばさん店主がじろじろ私を見ています。私は彼女のところへ向かいました。

私「プレーヤーを買いたいのですが、3千円しかありません。あの4千円のプレーヤーをぜひ売ってください」
おばさん店主「金がないのは分かってた。だけどあんたは堂々と頼みに来た。それでこそ九州の男じゃ。売るばい」

こういういきさつでプレーヤーを売ってくれました。おばさん店主には感謝の言葉しかありません。生涯続く趣味のきっかけになったのですから。

2. 1970 年代

1971 年秋葉原でセパレート型の機器を買いました。プレーヤーはドイツの Dual＋米国の Shure カートリッジ、アンプは日本のトリオ、スピーカーは英国の Rola Celestion Ditton15、合計 20 万円足らずでした。

いずれも丈夫で長持の名器、1990 年代に順次寿命を迎えました。ただスピーカーは長生きで、今年の 1 月まで役に立ちました。

同年秋にインドネシア転勤となり、当時は密輸が盛んでオーディオ機器など持ち主に届かないということで、持ってゆきませんでした。もっぱらラジカセで我慢の 5 年間でした。オーデイオ不毛の地でしたが、ジャカルタ市内で、JBL Paragon を見かけました。

帰国後手持ちの機器で楽しんでいましたが、相変わらず聴くのはクラシックばかり、特にバッハを集中的に聴くようになりました。この傾向は今でも変わりません。

3. 1980 年代

1982 年に香港転勤となり、手持ちの機器を持ち込みました。6 年後帰国に際し、記念にオーディオ機器を買って帰ろうと思いました。当時香港には有名オーディオ機器としては Tannoy と Quad しかなく選択肢が限られていました。Tannoy RHR が盛んに宣伝されており、欲しいとは思ったものの、あの巨大さや重量に辟易、代理店が社員向け特別価格で売ってくれるというのを辞退。市中で Greenwich を買って帰ったのですが、大失敗。隔靴掻痒の音なのです。安物買いの銭失いで

した。数年使って売りました。

80 年台末米国へ転勤となりました。

4. 1990 年代

米国には素晴らしいオーディオ機器が、多数あるだろうし、あわよくばそれらを手に入れようと思いました。赴任地はロサンゼルスの南、オレンジ郡アーヴァインです。全米一治安のよい健康志向の町で、オーディオ機器の販売店はなく、これといった機器に巡り合うことはありませんでした。日本からスピーカーDitton15 だけを持ち込み、あとは中級品を現地調達しました。

ジャズ専門の放送局があり、聴き流しで聴いて居れば、少しはなじめるかと思いましたが全然だめ。いまだにジャズを聞けばむしずが走る思いです。

帰国に際し、Ditton15 だけを持ち帰り、あとは勤務先であった現地会社に寄付しました。米国時代はカリフォルニアの山野を歩き回る貴重な経験をしましたが、オーディオ面ではこれと言った収穫はありませんでした。

帰国後大きな変化がありました。
1　プレーヤーとアンプが寿命を迎えたので廃棄
2　LP を全量廃棄し、CD に切り替え
3　1995 年、我孫子オーディオファンクラブに設立メンバーとして参加

1995 年に自営業に転じ、自宅で音楽を聴く時間が増えました。世紀末2年間マレーシアの大学で、国際ビジネスを教えました。当時マレーシアは電器産業に力を入れており、オーディオ機器など、たとえ個人用であっても輸入は厄介ということで、持ち込みませんでした。

現地では JVC が現地生産しているミニコンを使いました。オーディオ不毛の地に近い状況でしたね。

不思議なことがありました。ある店にオーディオラックがありました。そこへ入ると、一瞬店内が緊張しました。その店は販売が認められていないラックを売っていたようです。日本人の検査員が検査に来たと思ったのでしょう。やがてそうでないことがわかり、打ち解けて話をしました。私は日本円で約￥15,000 相当のラックを注文しました。その夜社長自ら私の家に来て、組み立ててくれました。ところがなんと帰国すると同じものを¥55,000 程度で売っているではありませんか。いい買い物をしました。

欧米の有名機器の持ち帰りは実現せず、東南アジア最高峰、ボルネオのキナバル山（4,100m）還暦記念登頂が最高の思い出となりました。

新スピーカー2セット

5. 今世紀

現在使用中の機器
主：CD Player Sony SCD77ES　Amp. Accuphase Control C265 ＋Power P450　Speaker Fostex FE108-Sol in BearHorn ASB1081-M enclosure
写真の大きい方です。

副：CD Player Marantz SA14　Amp. Luxman LXV-OT7 mk2　 Speaker FE103 NV2 in BearHorn BW-1100。写真の小さい方、Ditton15 の後継です。

主として使っていた Harbeth はいいスピーカーですが、おだやかでガツンと来るものがなく、食い足りないと感じていました。Harbeth と Ditton15 の売却代金でバックロードホーンスピーカー2セットを組み立てました。当初 20 センチフルレンジ 1 本を主に考えていたのですが、そのユニットが売り切れ、また 1 台 20 キロを超えるスピーカーも移動を考えると現実的でないので、Fostex が再販を始めた 10 センチ FE108-Sol にしたのです。ずいぶん安上がりです。高価な欧米の機器を珍重するのは止めましょう。

残った売却代金で真空管アンプを組み立てました。Luxman LXV-OT7 mk2、使用真空管 JJ ECC802S, わずか3ワットですが、自宅のスピーカーを動かすには何の問題もありません。組み立てに2時間ほどかかりました。

80 歳代半ばに差し掛かり、初めてオーディオ機器組み立てに挑戦、販売店やメーカーの人たちに教えてもらいながら完成です。

聴くのは相変わらずクラシック一辺倒、特にバッハを聴かないと一日が終わりません。よく聴くのは、無伴奏チェロ組曲（フルニエ）と幻想曲とフーガト短調（ハーフォード）です。

この 60 数年私が聴いた音楽を振り返ってみると、狭い分野ながら一定の流れがあるようです。多人数の演奏から少人数の演奏へ、高音楽器から低音楽器へ、音数の多い音楽から音数の少ない音楽へ。なじめなかったのは、ジャズとオペラです。特にオペラは音楽だけあればよく、芝居は不要です。少数ながら同様の考えの人たちが確かに存在するようです。

以上

ボルネオのキナバル山（4,100m）
還暦記念登頂

自分の顔